

2020年度

**アクションプラン
(案)**

公益社団法人 栃木県サッカー協会

目 次

公益社団法人栃木県サッカー協会の理念	・ ・	P 7
公益社団法人栃木県サッカー協会のビジョン	・ ・	P 7
公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み	・ ・	P 8
2020年度のTFA活動目標	・ ・	P 9
1. 第1種委員会・社会人連盟	・ ・ ・	P 10
2. 第2種委員会・高校連盟	・ ・ ・	P 10
3. 第3種委員会・中学連盟	・ ・ ・	P 11
4. 第4種委員会・少年連盟	・ ・ ・	P 11
5. 女子委員会・女子連盟	・ ・ ・	P 13
6. クラブユース連盟	・ ・ ・	P 14
7. シニア委員会・シニア連盟	・ ・ ・	P 14
8. 技術強化委員会	・ ・ ・	P 14
9. フットサル委員会・フットサル連盟	・ ・ ・	P 15
10. 審判委員会	・ ・ ・	P 16
11. グラスルーツ委員会	・ ・ ・	P 20

公益社団法人栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み(TFAミッションファイル)

《10年後の達成目標(TFAゴールプラン2022)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値 ＜2019年度＞
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間（サッカーファミリー）のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人（県民の2%）</u> になる。	1. 第1種登録チームの選手登録数の拡大 2. U13～18年代の選手登録数の拡大 3. 女子の選手登録数の拡大 4. フットサル選手登録数の拡大	サッカー選手登録 15,954人 フットサル登録 484人 審判員 6,386人 指導者 2,353人 計 25,177人 県民人口 1,943,946人 県民の 1.29%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として <u>5名以上</u> 、「 <u>Jリーガー</u> 」として <u>40名以上</u> 活躍する。また、「 <u>国際審判員</u> 」として <u>2名</u> 、「 <u>1級審判員</u> 」として <u>10名以上</u> 活躍する。	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成 4. 審判員の育成	日本代表 0人 女子日本代表 0人 Jリーガー 33人 国際審判員 0人 1級審判員 7人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10入り</u> する。	1. 組織内の連携強化 2. 組織基盤の確立 3. 実施事業の充実	全国ランキング 第36位
J1チームの創設・活用	<u>栃木SCがJ1に昇格</u> し、本県選手と県民に夢と活気を与える。	1. 連携・共存体制の確立 2. サポート体制の確立 3. 協同連携事業の実施	J2所属栃木SC
サッカー施設の充実	<u>新たなスタジアムの完成</u> と県内の <u>人工芝サッカー場が25面に増加</u> する。	1. 対象自治体への整備要望活動の展開	人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 5面 ・矢板市 3面 ・大田原市 1面 ・那須塩原市 3面 ・日光市 2面 ・佐野市 1面 ・小山市 1面 ・真岡市 2面 ・さくら市 1面 ・足利市 1面 ・栃木市 1面 計 22面
2022年栃木国体での大活躍	栃木国体において「 <u>総合優勝</u> 」する	1. 代表チーム強化 2. 選手の強化・育成 3. 指導者の育成	

2020年度のTFA活動目標

- (1) アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2) サッカーファミリーの拡大（グラスルーツの普及促進）
＜プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.3%を目指す＞
- (3) 各種別の本県代表チームの活躍
＜全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す＞
- (4) 鹿児島国体でベスト4以上を目指す
- (5) J2栃木SC・関東リーグ栃木シティFCとの連携・協力体制の確立
- (6) サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (7) 県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (8) 2022年栃木国体「総合優勝」に向けた5か年行動計画の推進
- (9) TFA創立75周年記念事業の実施
 - ・ 記念誌の作成（9月発刊予定）
 - ・ 記念試合の実施（6月開催予定）
- (10) 財政の健全化<新たな収入源の確保>

1. 第1種委員会：社会人連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内リーグチーム強化 ・ 各種大会の運営力の向上。 ・ 栃木国体に向け鹿児島国体へ出場する。 ・ 県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・ トーナメント大会参加チーム数を継続する取り組み ・ 新規チーム数を増やすための取り組み ・ 登録チーム内のC級・B級指導者を増やす取り組み ・ 登録チーム内の3級審判員を増やす取り組み <p><数値目標> 鹿児島国体で成年男子チームがベスト8になる。 登録チーム内の指導者・3級審判員を1名以上増やす</p> <p><スローガン> チーム社会人(1種)の取り組み</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内大会の活性化(3部決勝大会参加チーム数の見直し) ・ 全国大会の運営 ・ Jチーム・関東リーグチームとの連携による国体チーム及び県内チームの強化 ・ MC資格保有役員はマッチコミッショナーを2試合以上担当する。 ・ 県協会・他種別と共同で事業を実施し新規・継続選手数を増やす。 ・ トーナメント大会参加数継続のためのサポート活動 ・ 県内上位リーグから指導者・3級審判員を増やす活動を開始する。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国地域サッカーチャンピオンズリーグ1次ラウンド ・ 全国社会人サッカー選手権大会関東予選 ・ 国大関東ブロック大会・本大会 ・ 県内トーナメント大会・リーグ戦 ・ J2・関東リーグチームとの連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校サッカーの活性化(男女) ・ 高校サッカー部員の増加(男女) ・ 本県代表校の活躍(男女) ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化 <p><数値目標> 部員数 3,000人 関東大会・全国大会優勝</p> <p><スローガン> サッカー環境の整備(気持ちよくサッカーができるように)</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危機管理体制の充実 ・ 関東高校サッカー大会 ・ 全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・ 審判員の充実 ・ 栃木県ユースサッカーリーグU-18のよりよい運営 ・ 本県代表の関東・全国大会入賞 ・ プレミアリーグ・関東プリンスリーグへの参入

目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審判研修会及び講習会の開催 ・ 高校連盟の試合途中経過・結果速報 ・ 本県代表の全国大会入賞及び関東プリンス運営の協力体制づくり ・ ユース審判員の育成及び活用
--------------------------	---

3. 第3種委員会：中学連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技環境の充実 ・ 指導者の質の向上 <p><数値目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ① U-15リーグに90%以上のチームの参加 ② 公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上 ③ M4による指導者講習会への参加率85%以上 ④ マッチコミッショナー・ウエルフェアオフィサーの10名以上の養成 <p><スローガン></p> <p>より良い育成環境を目指して</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーグ戦を軸とした年間カレンダーの見直しとリーグ再編 ・ 指導者養成事業及び指導者研修 ・ 3種委員会の組織の充実
目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ U-15リーグ (1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ) ・ 公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会 ・ 各地区での指導者講習会 ・ マッチコミッショナー・ウエルフェアオフィサー養成講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

2020年度の活動目標	<p>【競技】 ①選手育成・技術力向上を視野に入れた、各種大会の企画 ②地区予選・県大会・上位大会関係業務の円滑な遂行</p> <p>【地域】 ①選手育成を視点としたトップリーグ・地域リーグの充実 ②7地区の少年連盟と県少年連盟との意思疎通のためのパイプ役としての円滑な業務の遂行 ③登録チーム、登録選手の増加</p> <p>【技術】 ①関東・全国レベルで通用する選手の育成 ②地区トレセン指導者の育成とレベルアップのための研修会の開催 ③県トレセンと地区トレセンとの連携強化 ④審判委員会との連携</p> <p>【審判】 ①審判研修会の充実 ②審判インストラクターのスキルアップ研修の実施 ③他種別との連携</p> <p>【記録広報】 ①正確な情報を迅速に提供</p> <p>【女子】 ①女子選手の積極的育成 ②女子だけのチームを増やすこと</p>
-------------	---

	<p><数値目標></p> <p>【地域】 各種申込書提出締め切り日の厳守</p> <p>【技術】 関東選抜大会ベスト4 以上 ナショナルトレセン10名選出</p> <p>【審判】 3級審判員10名以上の増員（昇級）</p> <p><スローガン></p> <p>【技術】 日常を変えよう</p> <p>【審判】 基本に忠実に</p> <p>【記録広報】 正確に・迅速に・効率よく</p>
<p>2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<p>【競技】 ①各種文書の発送、受信の厳正 ②選手育成・技術力向上を視野に入れた、計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p>【地域】 ①トップリーグ・地域リーグ・地区予選大会の円滑な運営 ②地区トレセンと県トレセンとのパイプ役 ③各地区から出た意見の県少年連盟への吸い上げ ④各委員会事業への協力 ア 競技運営委員会（県大会会場確保） イ 技術強化委員会（県トレセン） ウ 審判委員会（4級更新講習会） エ 広報委員会（地区及び県大会結果の報告） オ 女子委員会（県トレセンへの推薦）</p> <p>【技術】 ①県トレセン活動の充実 ・年間指導計画の継続的検討と検証 ・トレーニングの質の向上 ②地区トレセンとの合同開催や指導協力 ③指導者の質の向上 ・指導者研修会の設定 ・県技術委員のB級取得促進</p> <p>【審判】 ①3級審判員の増員と育成を図る。 ②3級インストラクターの活動の場を増やす。 ③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。</p> <p>【記録広報】 ①大会運営者・企業との円滑な情報連携 ②インターネットを活用した効果的な情報共有の効率化</p> <p>【女子】 ①女子選手の育成事業の開催 ②トレセン女子活動の活性化</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>【競技】 ①計画的な年間プログラムの作成と大会企画・運営</p> <p>【地域】 ①地域委員会の定期的開催（年12回開催） ②トップリーグ・地域リーグ・地区予選会の運営 ③各種県大会の運営協力 ④地区の優秀な選手の発掘 ⑤他の委員会への協力 ⑥地区の理事会の活性化</p> <p>【技術】 ①県トレセンと地区トレセンの合同開催 ②ナショナルトレセン研修会への参加促進 ③関東女子トレセンマッチデー、MTMトレセンマッチ、ナショナルトレセン選考会、ナショナルトレセン、キャノンガールズエイト、関東選抜大会</p>

	<p>【審判】①各地区との連携を密にし、審判研修会を計画的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技指導者研修会（各地区審判アドバイザー） ・3級審判員研修会（3級審判員のうち希望者） ・インストラクター研修会（3級インストラクター） ・3級昇格に向けた研修会（3級昇格希望者） <p>②上記の各種研修会の中で、3級審判インストラクターによる指導の場を設ける。</p> <p>③他種別と連携し、積極的に審判員を派遣する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県社会人リーグなど（1種） ・高校サッカー選手権大会（2種） ・下野杯（3種）
--	---

5. 女子委員会：女子連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン制度の充実・強化 ・競技人口の拡大 ・指導者の育成 ・女性審判、ユース審判の育成 3級新規審判員の発掘 ・JFA 普及コーディネーターの活用 ・ゲーム環境の整備 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技人口100名増 ・女性指導者D・C級30名増 ・女性審判50名増（内ユース審判45名） ・なでしこひろば開催団体5団体増 <p><スローガン></p> <p>女子サッカーを身近なスポーツに！！</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15、U-18トレセン活動の充実・強化 国体少年女子選抜チーム（2022年）を見据えた取り組み ターゲット年代の強化策 国体成年女子選抜チームとの連携 ・普及事業 グラスルーツやフェスティバルから女の子や女性が身近にサッカーが楽しめる環境を増やす。（例：JFA なでしこひろばの活用） ・審判トレセンの充実と底辺拡大 県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大 ・新規MCの発掘 審判インストラクターの発掘
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン女子U-15/U-18 ・U-12女子トレセンとの連携 ・グラスルーツ ・ガールズ・レディースフェスティバル ・審判トレセン ／U-15県リーグ

6. クラブユース連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関東リーグへの進出（各年代別強化） ・ 帯同審判の質の向上 ・ 全国大会（クラブ選手権・高円宮杯）への出場
	<p><数値目標></p> <p>関東大会でのベスト8以上 全国大会への出場</p>
	<p><スローガン></p> <p>未来を担う選手たちと共に！ （高めあい・競い合い・認め合う）</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・ U-15 リーグを含め U-14 の強化 ・ リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上 ・ 栃木国体に向けて、U-14・13 の強化
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ U-15 リーグ・U-13 リーグ（関東・県） ・ 帯同審判の講習会 ・

7. シニア委員会：シニア連盟

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ シニア連盟の組織化（各年代） ・ 未登録チーム・選手の協会登録強化（各年代） ・ 関東大会の大会運営 ・ 全国大会予選会の突破
	<p><数値目標></p> <p>各年代（0-40・0-50・0-60・0-70）の全国大会出場</p>
	<p><スローガン></p> <p>各年代での関東大会を突破し全国大会出場</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・ シニア連盟の組織の強化 ・ シニアリーグの活性（各年代40、50、60） ・ JFA 第8回全日本0-40 サッカー大会関東予選の開催のための大会運営 ・ シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・ シニア委員会の各年代及び地域のメンバー選出 ・ シニアサッカー選手権大会（0-40, 0-50, 0-60）5月・8月9月 ・ シニアサッカーリーグ（0-40, 0-50, 0-60）4月～3月 ・ JFA 第8回全日本0-40 サッカー大会関東予選の開催 7月

8. 技術強化委員会

2020年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 栃木国体+10 年を視野に入れた諸事業の実施 ・ トレセン活動のさらなる充実と指導者間の連携 ・ 栃木 TSG(テクニカルスタディグループ) データ活用
	<p><数値目標></p> <p>関東トレセン大会各種別 A クラス入り</p>

	<p><スローガン> 全県一致</p>
<p>2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国体強化策の具現化 成年男子：2022 国体チームの決定。 選抜チームか、単独チーム化の決定。それに伴う監督・スタッフ体制の決定。 女子：成年選抜チームの発足、栃木 SC との連携 隔年強化の具体策の作成。 少年選抜チーム作りに向けての具体的アクション 2022 年ターゲット年代の強化、及び強化事業の決定。 少年男子：U-15 早生まれ及び U-14 県トレセンの強化 2022 年ターゲット年代の強化、及び強化事業の決定。 ・ トレセン改革 県トレセンの行い方の見直しと実践（より充実したものにするために） ・ 各種別の指導者養成及び指導者の掌握 若い指導者の育成とネットワークの形成 若手指導者の養成・強化 県内 B 級コースの解説 ・ テクニカルスタディグループの活用及び指導者への還元 県内 TSG レポートの作成。予算化。 ・ 各種連盟や委員会との連携、そのための技術委員会組織の再編。
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ U-14 トレセン海外遠征 2022 年ターゲット年代によるスペイン遠征。 ・ U-15・14 県トレセン強化策 ・ 地区トレセンの強化＝県内指導者の育成（情報の共有） カテゴリーを超えた連携

9. フットサル委員会：フットサル連盟

<p>2020年度の活動目標</p>	<p>U-18、U-15年代の指導者がフットサルの重要性を認識してくれていることは感じられるが、この年代の選手はサッカー登録している選手がほとんどでサッカー競技の試合日程とフットサルの大会日程が重複しているために、関心を持ちながらも参加できない状況があることは残念である。この年代の委員長やサッカーの指導者との交流を深め、フットサルとサッカーの在り方等を協議していき、日程の調整など良い方向にもっていくことが重要となる。それが、本県のフットサルの普及にはつながるのではないかと考える。</p> <p>さらにフットサルの普及・振興のために、フットサルイベントを企画してフットサル未経験者や多くの方にフットサルに触れる機会を増やすための広報・普及活動も急務である、また、若い年代の技術の向上や試合の経験値をあげるためにクリニックの計画的実施し、若手の指導者の育成など、中長期的な課題として今後の本県フットサルをより厚みのあるものとする必要がある。</p> <p>また、近年、アンダーカテゴリー等の大会増加により、フットサル委員会・連盟事業の多岐にわたるようになってきていることから、連盟を組織の充実を図る時期になってきている。</p>
--------------------	---

	<p>大会会場が体育館で、他団体との競合で施設の確保が困難であるが選手に良い環境でプレーしてもらいたいのので、会場の確保に努力とともに県協会に働きかけをして、協会の持つ体育館設置への働きかけをしていきたい。</p> <p><数値目標> 男女の登録選手数500名を目標に増加させる</p> <p><スローガン> 栃木のフットサルの振興と競技力の向上</p>
2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<p>①男女栃木県リーグの充実</p> <p>②各年代におけるフットサル大会の運営と選手の発掘</p> <p>③U-23年代以下の育成・強化</p> <p>④普及事業の情報の発信の工夫と促進</p> <p>⑤県内におけるフットサルのPR</p> <p>⑥審判員の育成</p> <p>⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実</p>
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<p>①栃木県フットサルリーグ</p> <p>②全日本フットサル選手権栃木大会</p> <p>③全国選抜フットサル大会</p> <p>④栃木県女子フットサルリーグ</p> <p>⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県予選</p> <p>⑥全国女子選抜フットサル大会</p> <p>⑦年代別各カテゴリーのフットサル大会</p> <p>⑧各種普及イベントの充実 ファミリーフットサル オープンフットサル大会</p>

10. 審判委員会

2020年度の活動目標	<p>①国体に向け、審判員の増員、レベルアップを図る。また、実働の審判員だけでなく、インストラクターを中心に大会を運営できるスタッフの育成を目指す。</p> <p>②審判トレセンは毎月1回第3日曜日に固定し実施する。講義形式だけでなく、フットボールセンターを利用して、実技研修（プラクティカルトレーニング）を実施する。その場を3級インストラクターの活躍の場としても有効に活用し、指導者の資質向上、審判員の底辺の拡大・底上げを目指す。</p> <p>③強化審判研修会を2つのチーム（1級、その他2級上位）に分けて、それぞれに必要な知識・技能を効果的に供給・提示していく。</p> <p>⑤インストラクタートレセンにインストラクターを参加させサポートする。上級の指導者を育成する。</p> <p>⑥大学生向けの講習会を実施し、即戦力の審判員育成を図り始めた。今後も継続する。</p> <p>⑦シニア、フットサルにおいても限られた人材・予算であるが、改善を目指し、各大会・講習会をスムーズに運営する。</p> <p>⑧ユース審判員の育成を図る。</p> <p>⑨割当については、関東の動向を見ながら、何よりも審判員に有益な方法を見いだす。</p>
-------------	--

	<p><数値目標></p> <p>①審判員登録数を1級：7名、2級：70名（関東で実働40名）、3級：500名（2級受検候補5名）、女子2級：4名 3級：6名</p> <p>②4級：4500名、フットサル：600名、女子審判員：180名を目標に育成する。（中期、長期）</p> <p><スローガン></p> <p>THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND 'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦)</p>
<p>2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）</p>	<p>(1種)</p> <p>①3級審判員の拡大 県社会人リーグ参加チームから3級審判員を育成し、チーム登録審判員に3級審判員の登録拡大を図る。</p> <p>②3級審判員研修会の実施 3級審判員を対象にした実技研修会を開催して技術向上を図る。</p> <p>③種別との連携 他種別との連携により、1種大会の審判員を増やすとともに、他種別を経験することで審判としての幅を広げる。</p> <p>(2種)</p> <p>①4級ユース審判員の更新の定着を図る。</p> <p>②ユース審判員の育成を充実させる。</p> <p>③若手顧問の指導・育成を図る。</p> <p>(3種)</p> <p>①審判研修会の充実 ・参加者の拡大と内容の充実を図る。 ・地区別研修会（年1回以上）の実施（計画・報告書の提出） ・インストラクターの活用</p> <p>②若手審判員の発掘と育成 ・多種別との交流を図る。 ・上級審判員の拡大（2級審判員・3級審判員の増員） ・3級インストラクターの増員</p> <p>(4種)</p> <p>①講義形式と実技形式の研修会を実施し、3級審判員の増員と育成を図る。</p> <p>②3級インストラクターの活動の場を増やす。</p> <p>③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。</p> <p>(女子)</p> <p>① 2級審判員1名、3級審判員3名の増員を図る。</p> <p>② ユース向け女子審判トレセン年2回実施。</p> <p>③ 3級審判向け競技規則研修会の実施。</p> <p>④ チーム帯同審判員の実技研修会の実施。</p> <p>⑤ 公式戦決勝を女子審判員4名で実施。</p> <p>(シニア)</p> <p>① 各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。そのうち、1名以上3級以上の審判員を確保する。</p> <p>② シニアの各カテゴリー(0-40 から 0-60 まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。</p>

	<p>(クラブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2級を目指せる3級審判員を発掘し、指導育成する。 ② 3級を目指す4級審判員を発掘し、指導育成する。 ③ チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。 ④ 体制強化と若返りを図る。 <p>(フットサル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実働審判員の確保 ② フットサル審判員の能力向上 ③ 上級審判員候補の発掘 <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 新アセスメントレポート様式によるアセスメントへの移行。 ② 各インストラクター年間最低3試合以上アセッサー任務の義務化。 ③ 審判員への継続的な指導を考慮したアセッサー割当ての実施 ④ インストラクター個々のスキルレベルアップ。 <p>(割当部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① kickoffサイトの有効利用 インターネットやスマートフォン等を活用して審判員、インストラクターのスケジュール情報を共有し、効率の良い審判割当、アセッサー割当を行う。 JFA、関東協会のようにkick offシステムを試験的に導入、試みる。 ② 各種別の連携強化 種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審判員のレベルアップに貢献する。 また派遣審判員を対象とした研修会を開催し一体感をもって底上げする。 ③ 在野の審判員の発掘 級に関係なく派遣審判員を目指す人材の発掘、育成をする。 ここで指導育成した審判員を各種別で活躍できるような仕組みを作る。(4級、3級のスキルアップ) 県協会ホームページに掲載し、幅広く宣伝できるように工夫する。
<p>目標達成に向けて取り組む事業 又は競技会名</p>	<p>(1種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1種大会 (NEZASカップ1次予選、クラブ杯、県リーグ、知事杯等) やトレーニングマッチを使用した実技指導を実施する。 ② 派遣審判員を対象にした1種主催の研修会・体力確認会を開催する。 ③ 3級候補者を対象に競技規則や技能の向上を図る育成研修会を開催する。 <p>(2種)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ユース審判員 <ul style="list-style-type: none"> ・ ユース審判員の環境整備を行う。(ユースリーグ参加チーム内に有資格ユース審判員2名がいることの厳格化) ・ 4級取得講習会を中部・北部・南部で行う。4級更新については、e-ラーニングを中心とし更新不備とならないような情報を提供する。 ③ 顧問 <ul style="list-style-type: none"> ・ 若手顧問を第2種の試合において積極的に割当して指導する。 ・ 若手顧問を指導して、2級審判員や3級審判員に昇級させる。

(3種)

①研修会の充実

- ・ 10月－中学校県新人大会最終日
- ・ 12月－下野杯中学生サッカー大会準々決勝4試合
- ・ 3月－東日本中学生マロニエフェスティバルへの協力
(多種別との交流を含めて)
- ・ 年1回以上の地区別研修会の実施(インストラクター派遣)
(競技規則に関する研修会の実施)

②審判員の発掘と育成

- ・ 多種別の審判員との交流を推進する。
(3種→2種・1種へ) (4種→3種へ)
- ・ 地区担当者との連携強化 **(定期的な会議の実施)**

(4種)

①各地区との連携を密にし、審判研修会を計画的に実施する。

- ・ 実技指導者研修会(各地区審判アドバイザー)
- ・ 3級審判員研修会(3級審判員のうち希望者)
- ・ インストラクター研修会(3級インストラクター)
- ・ 3級昇格に向けた研修会(3級昇格希望者)

②上記の各種研修会の中で、3級審判インストラクターによる指導の場を設ける。

③他種別と連携し、積極的に審判員を派遣する。

- ・ 県社会人リーグなど(1種)
- ・ 高校サッカー選手権大会(2種)
- ・ 下野杯(3種)

(女子)

①JFA女子トレセンの活用。

②1月帯同審判員講習会 5月ユース審判員講習会 11月ユース審判員講習会 県リーグ時毎回実施 訓練研修会 3級取得者向けルール講習会

③女子公式戦決勝4名女子で実施

(シニア)

① 審判の取得・更新

- ・ 通知等で啓発

② 研修会の充実

- ・ 委員会、リーグ戦、選手権大会、本県開催の関東大会

(クラブ)

① 2級・3級を目指す審判員の発掘し、指導育成する。

- ・ 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 栃木県大会
- ・ 栃木県U15・13リーグ
- ・ 高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 栃木県大会
- ・ 3種リーグチャンピオンシップ
- ・ 下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会

② チーム帯同審判員を集めた審判研修会を実施する。

- ・ 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 栃木県大会 最終日

③ 体制強化と若返りを図る。

- ・ 新たな人材の加入と体制の見直し

	<p>(フットサル)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各種 (県・地区大会) 大会帯同審判員へのアプローチ 各種大会帯同審判員への技術指導 審判活動希望者募集の為に広報活動 (県協会HPへの掲載等) ② 県リーグ担当審判員の主審技量の向上 担当審判員研修会、他県リーグ・審判交流等を通じての 競技知識の向上 各種大会におけるインストラクターによる実技指導 ③ F3昇級の為に育成コースの開設 F2昇級候補者の育成 <p>(指導・育成・インストラクター)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新様式アセスメントの導入のためのレベル合わせ研修会を複数 回実施。 ②各インストラクター最低3試合以上のアセスメント実施を義務 化する。各種別及び各部と随時情報交換を行い、審判員育成指 導の連携を図る。 ③競技部、各種別及び各部と連携を図り、アセッサーの早期割当 てに努め、強化対象審判員の継続的 指導を実施する。 ④審判トレセンへ、インストラクタートレセン及び審判研修会時 アセッサーへの積極的な参加促進。受講の義務化等資格要件制 度の検討。
--	---

1 1. グラスルーツ委員会

<p>2020年度の活動目標</p>	<p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー未経験者のキッズ事業への参加者数の増加 ・キッズ事業に関わる大人の増加 <p><巡回指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政との連携 (キッズ委員会以外からのアプローチも模索) ・指導先の拡大と受益者負担への働きかけ ・TOYATAとの協働による指導内容の充実 ・巡回指導スタッフの発掘 <p><フェスティバル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区フェスティバルの内容の充実 (チームをバラバラにしたり親 子サッカー等) ・JFAフェスティバルを含むフェスティバルの回数増加 ・他種別 (特に4種と技術委員会) との連携での開催 ・サッカー未経験者の参加増大 (未経験者が来て初めて普及) <p><キッズリーダー講習会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・短大・専門学校等、教育者育成機関での開催 ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催 <hr/> <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち延べ23,000人との交流 ・サッカー未経験者延べ500人の参加 ・キッズリーダー講習会の開催 (15コース、300名) ・キッズの重要性を発信する講習会・研修会の開催 (2回)
--------------------	--

	<p><スローガン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キッズから栃木のサッカーを変えていこう ・ 栃木をキッズ王国に
<p>2020年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回指導 400回 (幼稚園・保育園95園、小学校40校) ・ JFAフェスティバル、および各地区フェスティバルでの未経験者の参加へのアプローチと参加者の増加 (目標500名) ・ 各地区フェスティバルのサポート (年2回以上の開催を目指す) ・ フェスティバルの内容の充実 (チームの対抗戦だけにしない、研修会を兼ねる、グラスルーツ方式) と、関われる大人を増やす ・ ユニクロキッズフェスティバルの開催に向けた準備 ・ 他種別との交流事業の充実
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ JFAキッズサッカーフェスティバル ・ JFAグラスルーツフェスティバル ・ ユニクロキッズフェスティバル ・ 栃木県サッカー協会キッズプログラム巡回指導 ・ キッズリーダー養成講習会 ・ 地区主催キッズサッカーフェスティバル ・ 栃木SC・栃木シティ・ヴェルフェ矢板等の巡回指導 ・ キッズ研修会

